

<一般社団法人福島県法人会連合会会長賞>

税金のありがたみ

二本松市立二本松第一中学校 三年 紺野 莉緒

二〇一一年三月十一日。私たちの暮らしを大きく一変させた出来事、東日本大震災。多くの人が苦しみ、傷つき、悲しみを受けたこの出来事。忘れてはいけない、忘れることのできない出来事である。

あの日、一瞬にして町の風景が変わってしまった。あれから約十年、町の風景は少しずつ戻りつつある。あの日から約十年の間で、どのようにして町が復旧したのだろうか。

地震や津波によって大きな被害を受けた、住宅、道路など、これを修復するには莫大な費用が必要となるだろう。この費用は、私達が納めた税金が使われていたのだ。私は驚いた。税金という、多くの人が納めたお金が、町の復旧を助けていたのだ。税金を納めたことで、町の手助けになっていたと私は思う。

被災した地域の学業はどうなっていたのか。私は疑問に思った。インターネットで調べると、高校受験に対する不安を抱く人が多くみられた。地震や津波によって、学校や家を失い、学習環境が壊されてしまったのだから、多くの学生が不安を抱くことは当然だろう。驚いたことに、そのような困っている人のためにも、税金が使われていたのである。

私は東日本大震災を通して、税金の大切さを学んだ。災害が起きた時、困っている人を助けてくれる。税金はそんな存在だと私は思う。

税金を納めることに負担を感じ、不満を持つ者もいる。私はそのようには思わない。まだ、税金を納めることの負担は全くわからない。しかし、東日本大震災を経験し、税金のありがたみを痛感した私なら、この先社会に出て、多くの税金を納める立場になっても、税金を納めることの大切さは忘れないだろう。

私達が当然のように過ごしている毎日は、多くの物が、税金によってまかなわれて

いる。税金は私達が生きていくために必要な物なのだ。そして今も、納めた税金で、今日という一日を過ごしている人がいる。今を生きる以上、税金を納め、社会に貢献していかなければならないのだ。いつまでも忘れずに生きて行こう。

私の今日という幸せを与えてくれた税金に、感謝の気持ちを伝えたい。

「ありがとう」と。